

馬主だより

第 6 4 号

平成 26 年 4 月 11 日

発行 (一社)ばんえい競馬

馬主協会事務局

☆ばんえい十勝 8 年目の挑戦 いよいよ開幕目前に迫る !!

▼新年度となり暦の上では春風の爽やかな季節を迎えておりますが、十勝ではまだ少し肌寒さが残っています。さて、ばんえい十勝もお陰様をもちまして早8年目のシーズンが始まろうとしております。▼帯広市単独開催以降これまで厳しい経営環境が続いておりましたが、昨年度は僅かながらではありますがようやく改善の兆しが見えつつあります。一方で競走馬の頭数減少は未だ歯止めがかからず解決の目途は立っておりません。▼競馬ファンにとって魅力のあるレース、質の高いレースを提供するためには、やはり競走馬が必要ですし、限られた資源で経営全体を俯瞰した中でバランスを見極めることが喫緊の課題です。▼いよいよ今月 13 日からは新年度のばんえい競馬が開幕を迎えます。消費税増税や払戻し率変更の影響など、先行き不透明感は払拭できませんが、しっかりと環境の変化に対応しながら新たな競馬ファン獲得のため、決して現状に安住することなく終わりになき挑戦をこれからも続けて行かなければなりません。▼2014 年度帯広市がばんえい競馬の主催者として経営責任を担う体制となり更なる飛躍が期待されます。今年度もナイター、薄暮を中心に 26 開催 153 日間の熱い戦いのゲートが間もなく切って落とされます。会員各位の愛馬のご活躍を心よりお祈りいたします。

平成 25 年度 ばんえい競馬 発売成績(累計)

開催 153 日間

CB 事業推進課投票グループ資料提供

平成 26 年 3 月 24 日終了時

区 分	発 売 金 額							
	平成25年度			平成24年度		対 比		
	日数	発売額	予算額	日数	発売額	予算	前年	
本 場	153	1,599,595,400	1,576,762,000	153	1,650,403,800	101.45	96.92	
直営場外	旭川北彩都	153	989,369,300	994,544,800	153	1,006,211,600	99.48	98.33
	ミトスポット北見	153	466,691,800	475,423,900	153	493,228,300	98.16	94.62
	ハロンス岩見沢	153	307,980,300	308,445,900	153	387,848,100	99.85	79.41
	ハロンス釧路	153	126,735,000	130,400,500	153	158,262,800	97.19	80.08
	ハロンス名寄	153	155,890,300	152,209,700	153	181,652,600	102.42	85.82
	アプスポット網走	153	152,715,600	153,073,200	153	138,183,300	99.77	110.52
	琴似駅前	153	113,177,500	115,557,700	55	33,376,600	97.94	339.1
	イルムふかがわ	94	99,887,000	96,947,200	—	—	103.03	—
電 投	オッズパーク	153	3,738,940,400	3,799,048,200	153	3,133,977,000	98.42	119.30
	OP(七重勝)	153	50,072,000	83,007,200	49	35,472,400	110.11	141.2
	OP(五重勝)	153	41,327,600		153	91,191,200		45.32
	競馬モール	153	2,119,213,500	2,174,786,500	153	1,527,656,200	97.44	138.72
広域場間場外	—	1,701,047,100	1,670,010,200	—	1,657,116,700	101.86	102.65	
場外・電投計	—	10,063,047,400	10,153,455,000	—	8,844,176,800	99.11	113.78	
合 計	153	11,662,642,800	11,730,217,000	153	10,494,580,600	99.42	111.13	
1日平均		76,226,424	76,668,085		68,592,030	99.42	111.13	

平成 25 年度該当開催(ばんえい競馬第 1 回 1 日目～第 24 回 6 日目まで 153 日間)

平成 24 年度該当開催(ばんえい競馬第 1 回 1 日目～第 24 回 6 日目まで 153 日間)

会議等の様子

○ 平成25年度第7回執行役員会を開催！！

～平成26年度予算案の積算根拠等を精査～

平成 26 年 3 月 8 日(土)午前 11 時から当協会事務局会議室において、平成 25 年度第 7 回執行役員会を開催いたしました。

平成 25 年度第 4 回理事会に先立ち提案する議案等について事前に審議をいたしました。今年度の事業実施状況や決算見込みを踏まえて、平成 26 年度の実施事業計画案及び収支予算案について科目毎に積算根拠等を精査し理事会に提案することとなりました。

その他、特定資産の運用方法や新年度の臨時家畜市場の開催日程等、市場の有り方について審議いたしました。

【執行役員会議事】

- (1)平成 25 年度第 4 回理事会の議案について
- (2)特定資産の運用方法について
- (3)平成 26 年度臨時家畜市場開設計画について
- (4)その他
 - ① 平成 26 年度 4 月行事予定等
 - ② 通常総会の招集日時等事前調整

○ 平成25年度第4回理事会を開催

～新年度事業計画案、収支予算案を審議 議決承認される！！～

平成 26 年 3 月 8 日(土)当協会事務局会議室において平成 25 年度第 4 回理事会が開催されました。

開会に先立ち、当協会理事の成田 武美様が去る平成 26 年 1 月 21 日に急逝されましたので、成田様のご冥福をお祈りし全員で黙とうを捧げました。

また、当協会理事の大野 清二様が一身上の都合により平成 26 年 1 月 25 日付で辞職届が提出されましたので、これに基づき、当該2名の理事について法務局に変更登記の申請をして登記が完了した旨報告されました。

議案では、当協会の平成 26 年度の事業計画(案)及び収支予算(案)について審議、原案のとおり全会一致で議決承認されました。

また、競走馬弔慰金給付規程の一部改正について審議、過去数年に亘る賞金の減額に伴う措置として、競走馬弔慰金の額の算定基礎となる通算取得賞金額の格付を見直すことになり、こちらも全会一致で議決承認されました。

なお、弔慰金の支給金額について、昨今、馬の価格が高騰している実情を考慮し見直すべきとの意見もありましたが、一方で財源確保の問題もあり、今後に向けて引き続き検討することと致しました。

協議案では、馬主の報償金等振込手数料の改定及び振替口座変更の協力要請について協議され、その結果、各会員に当該口座を北海道銀行帯広支店に変更して頂くよう協力を求めることとなりました。また、この件につきましては、今後一年間の猶

予期間を設け、それまでに振込口座を変更いただけない場合には、平成27年度以降、振込手数料を控除して報償金を振込むこととなる旨を併せて通知することになりました。

その他、4月以降消費税増税に伴う装蹄料金の改定と当協会が賞金から引去りする装蹄料金や診療料金等の委託料の改定について協議されました。

また、新年度の実施方針説明会、次回理事会、第19回通常総会の日程調整を行いました。

【第3回理事会議事】

- 日程1 報告第1号 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
- 報告第2号 競走馬弔慰金の給付額の決定について
- 報告第3号 正会員の入会申込について
- 報告第4号 理事の死亡及び辞任について
- 日程2 報告第5号 平成26年度帯広市ばんえい競馬開催に関する陳情書回答について
- 日程3 議案第1号 平成26年度事業計画(案)の承認について
- 議案第2号 平成26年度収支予算(案)及び附属明細書の承認について
- 日程4 議案第3号 競走馬弔慰金給付規程の一部改正について
- 日程5 協議案第1号 馬主の報償金等振込手数料の改定及び振替口座変更の協力要請について
- 日程6 協議案第2号 装蹄料金の改定通知について
- 協議案第3号 消費税増税に伴う賞金引去り受託料の改定について
- 日程7 協議案第4号 平成26年度ばんえい競馬実施方針説明会の開催について
- 日程8 その他 ① 代表理事会長の動向について(12月～3月)
② 次回理事会、通常総会等の日程について

注：改定後の装蹄料金については、先にご案内のとおりです。

また、競走馬弔慰金給付規程の一部改正によって、見直しされた改正後の格付は、先にご案内の「平成26年度競走馬弔慰金の概要」に記載されておりますのでご参照ください。

【正会員新規入会者】

会員番号	入会者氏名	馬主登録番号	ブロック名
25-12	吉岡良夫	北13-22	道北ブロック
25-13	山内一幸	北13-23	道東ブロック

○ 平成25年4月～平成26年2月期における監事監査実施！！

平成26年3月21日(祝金)当協会事務局会議室において平成25年4月から平成26年2月期における監査を実施。監査にあたり、執行役員を代表して、赤堀代表理事会長並びに長津専務立会の下、宝田、堂場両監事により、理事の職務の執行状況、又、協会の業務並びに財務及び会計の状況について監査を行いました。

【監査資料】

- 資料1 平成25年度事業実施報告(年度末見込み)
- 資料2 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況(年度末見込み)

資料3 平成 25 年 4 月～平成 26 年 2 月期決算報告書(財務諸表等)
・貸借対照表・正味財産増減計算書・予算対比正味財産増減計算書・収支計算書・
予算推移付収支予算管理月報・財産目録・正味財産増減計算書内訳表・
収支計算書内訳表・特定資産の増減及びその残高・固定資産の取得価格、減価償却
累計額及び当期末残高・平成 25 年度流通促進事業収支、純益総括表

資料4 その他参考資料
・平成 25 年度機構図・平成 25 年度新規会員・平成 25 年度会員資格喪失者・
平成 25 年度会員資格喪失対象者

○ 平成25年度第8回執行役員会を開催！！

～平成26年度賞金・諸手当予算案等について帯広市から提示～

平成 26 年 3 月 28 日(金)午後 1 時 30 分から当協会事務局会議室において、平成 25 年度第 8 回執行役員会を開催いたしました。

競走馬弔慰金の査定について対象馬一頭について審議。原案のとおり承認されました。続いて、平成 26 年度賞金・諸手当予算(案)について、事前に帯広市から提示のあった資料の内容について検討。平成 26 年度の発売予算額が、108 億 3,752 万円で報償費予算額については、前年度予算より 3,321 万円増額の 8 億 2,391 万円(前年度予算比 4.2%増)で、賞金額については、25 年度同様ですが、出走手当の基準額を 2 歳 36,000 円注 1(前年 35,000 円)、3 歳以上 33,000 円(前年 31,000 円)という内容でした。

注 1：2 歳出走手当については、新馬戦が概ね終了する時期に C クラス、D クラスとして出走する馬については 33,000 円とし、また、第 20 開催以降は、全馬 33,000 とする。

執行役員会ではこの内容を踏まえ、帯広市に平成 25 年度のばんえい競馬事業の収支見通しを示して頂いた上で、新年度においては、競走馬の出走頭数も 25 年度より確実に減少する事が予想される中で、帯広市の試算以上に 2 走使いのレース数が増え、それによる財源が見込まれることから、出走手当の基準額増額について、特に 2 歳馬減少に対応するためにも、年度当初から基準額を見直すよう要請することとなりました。

帯広市との協議では、当協会としては、「今後更に競走馬が減少することによるレースや発売額への影響を懸念し、若馬の確保という観点からも、出走手当について 2 歳馬は 40,000 円、3 歳以上 35,000 円、2 走使いについては 15,000 円」を再度検討するよう強く要望致しました。

その結果、平成 26 年度当初から 2 歳馬については 40,000 円に変更となりました。また、3 歳以上と 2 走使いについては、発売状況を見極めながら年度途中に於いても見直しを図るとの事でした。

注：2 歳馬の変更後の出走手当につきましては、別紙「平成 26 年度の報償費について」をご参照ください。

【執行役員会議事】

- (1)競走馬弔慰金の査定について
- (2)平成 26 年度賞金・諸手当予算(案)
- (3)その他
 - ① 平成 25 年度ばんえい競馬発売成績
 - ② 発売予算、売得金の額及び報償費対比表

- ③ 競走馬頭数調べ
- ④ 平成 26 年度ばんえい十勝開催計画

【馬弔慰金支給対象馬】 1頭 600,000円

内 訳				(単位;円)
馬 名	年齢	馬 主	給付別	馬弔慰金
スギノファントム	8	駒井鉄雄	業務中	600,000

情報・ご案内

○ ばんえい最高峰レース“第 46 回ばんえい記念”開催

～4,300人のファン熱狂 初挑戦のインフィニティー号が栄冠！！

ばんえい十勝は、3月23日(日)帯広競馬場で今年度の最強馬を決める農林大臣賞典「第46回ばんえい記念」を行い、10頭中6番人気のインフィニティー号(牡8歳、馬主:駒井鉄雄)が初挑戦で悲願を達成しました。

騎乗した浅田達也騎手もばんえい記念初挑戦で見事栄冠に輝きました。

当日は全国各地から約4,300人のファンが詰め掛け、迫力のレースに熱い声援を送っていました。1日の総売り上げは124,717,800円(昨年125,778,100円)、ばんえい記念競走1レースの売上は39,769,100円(昨年42,014,100円)、入場者数は4,264人(昨年5,194人)でした。

<インフィニティー号のプロフィール> ※2014年3月23日現在
 生年月日・毛色 : 2006年4月4日(牡8歳・鹿毛)
 血統: 父 フジエーカン 母 クインフェアー (母父)ヒカルテンリユウ
 生産者: 坂井 健一氏
 馬主: 駒井 鉄雄氏
 厩舎: 金田 勇厩舎
 通算成績: 235戦 33勝(うち重賞2勝)

○ 平成25年度開催最終日 競走馬引退セレモニー行う “アローファイター号 コマクイン号”お疲れさま！！

今年度のばんえい十勝最終日となった3月24日(月)帯広競馬場において、今季で引退する競走馬2頭のセレモニーが行われました。

第4レース終了後、引退するアローファイター号(牡10歳、馬主:長澤 廣茂、今井厩舎)とコマクイン号(牝8歳、馬主:駒井鉄雄、金田厩舎)の引退式を行い、多くのファンが名馬との別れを惜しんだ。

両馬がパドックに現れると、最後の雄姿を一目見ようと詰めかけたファン約100人に「お疲れさま」と感謝の声を掛けられ見送られました。

2頭はそれぞれ種牡馬、繁殖牝馬として次代のスター輩出を目指します。本当に

お疲れさま。そして、これまでありがとう。

○ 平成25年度ばんえい十勝開催全日程終了！！

～発売額116億6千万円 入場人員26万8千人超！～

ばんえい十勝は、3月24日を以って平成25年度の開催全日程(153日間)を終了。発売額については、前年比11.1%増の116億6,264万円で帯広市単独開催以降、初年度(平成19年度)の129億3,397万円の次に次ぐ成績となり、2年連続で前年実績を上回る結果となりました。

その中でもインターネット発売は同24.2%増の59億4,955万円と発売額全体の51%を占めるまでに伸ばし、初めて5割を超えました。

好調の要因は、景気動向の影響が大きいことありますが、ナイター、薄暮開催や深川場外の新設、広域場外発売日数の拡大なども売り上げ増の要因に繋がったものと思われまます。

一方で帯広競馬場の入場人員も好調で、同5.7%増の26万8,693人と市単独開催以降では最多となりました。

また、平成25年度の収支見通しでは数千万円程度の黒字額が見込まれており、経営改善への一歩を踏み出したばかりではありますが、今後、経営の安定化に向けて大いに期待をいたします。

○ 平成26年度「第1回能力検査」実施

～デビュー目指し144頭が受検 うち87頭合格する！～

ばんえい十勝の今年度の「第1回能力検査」が4月6日(日)午前8時から帯広競馬場において実施されました。今季競走馬としてデビューの144頭(2歳新馬142頭、3歳馬2頭)が合格を目指し検査を受検しました。結果、合格馬は87頭(前年114頭)でした。

第1回目の能力検査頭数は前年比32頭減少しました。一方、合格馬は57頭減と帯広市の単独開催以降、検査頭数、合格頭数とも過去最低となりました。

なお、能力検査は、今後8月15日までの五カ月の間に月2回の日程で計10回実施する予定です。

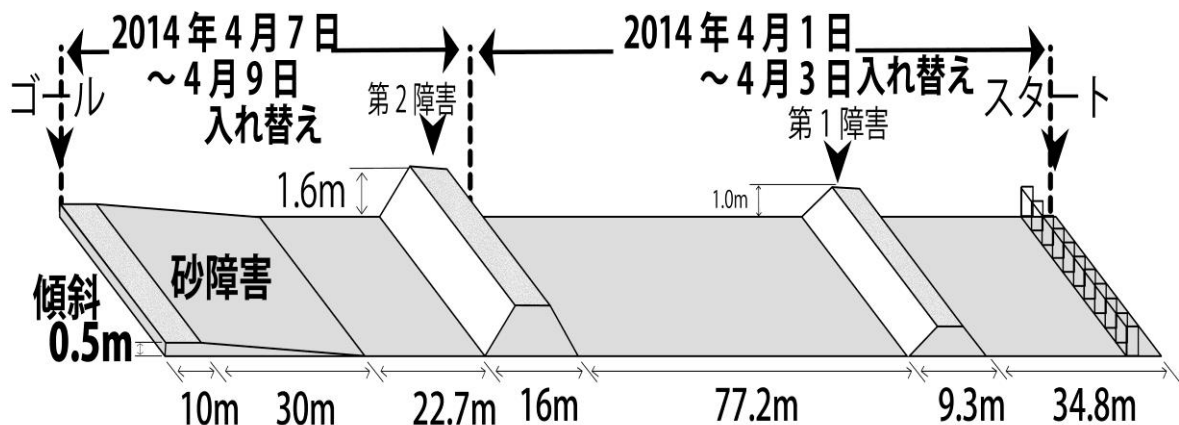
○ 新年度開幕に向け 走路の砂を全面入れ替え！！

ばんえい十勝では、平成26年度開幕に向けてコースの砂の入れ替え作業を行いました。また、これに併せてゴール前40m地点から30m間で0.5mの上り勾配をつけた砂障害を設置。砂障害の設置期間は、走路凍結防止のため11月中旬までを予定しております。

工事期間は、2014年4月1日(火)～3日(木)はスタートより第2障害手前まで、4月6日(日)「第1回能力検査」終了後の4月7日(月)～9日(水)は第2障害からゴールまでの砂の入れ替え作業をそれぞれ行いました。

また、ゴールまでの砂を入れ替え作業時に砂障害を設置致しました。

これによって、平成26年度4月13日(日)の平成26年度のばんえい十勝開幕より、新しい砂のコースでのレースがスタート致します。



レース情報

○ 重賞競走の結果

月日	重賞名	馬名	馬主	調教師
3月9日	第45回 イレネー記念	ホクショウマサル	井内 昭夫	坂本 東一
3月16日	第35回 ポプラ賞	オレノココロ	大森 勝廣	槻館 重人
3月23日	第46回 ばんえい記念	インフィニティー	駒井 鉄雄	金田 勇

優勝おめでとうございます！！

◆ 第45回イレネー記念（3歳オープン）

単勝2番人気のホクショウマサルが優勝。重賞初制覇を果たし、2歳シーズンチャンプの座に就きました。

馬場水分は1.7%と、やや力の要る馬場状態でスタート。勢いよく飛び出した各馬ですが、中間点付近からは慎重に歩を進めます。ブラックニセイ、アマモンドセブン、ホクショウマサル、ハクタイハウなどが馬群をリードし、他馬は少し置かれるような展開で第2障害を迎えました。

この4頭がほぼ同時に仕掛け、なかでもホクショウマサル、ブラックニセイが上々の登坂。しかし、ブラックニセイは天板でヒザを折り、その間にホクショウマサルが先頭で突破。やや遅れてハクタイハウ、少し離れてホクショウメジャーとブラックニセイ、キサラキクと続きました。

基礎重量690キロだけあって各馬の脚どりは重く見え、特にホクショウマサルはさすがに苦しい歩みに。これに内からハクタイハウ、外からキサラキクが迫って、いよいよ残り10メートル。そして残り5メートルでホクショウマサルがストップ。万事休すかと思われたところ、ハクタイハウも横に並んで脚を止めてしまいます。ここで牝馬のキサラキクが先頭に躍り出て、そしてゴール線上、勝ったかと思われましたが、キサラキク

もここで痛恨のストップ。立て直したホクショウマサルが勢いよくかわしてゴールに飛び込み、激戦に終止符を打ちました。0秒3差でハクタイホウが2着。キサラキクは奮闘及ばず、3着となりました。

まさに薄氷の勝利。「少し焦った」と阿部武臣騎手が話したように、ホクショウマサルがゴール直前で止まった時には勝負圏外かと思われました。ただ、早め早めでレースを引っ張ったことで、他馬に脚を使わせたことが勝利に結びついた印象。この馬の底力を強く感じさせる内容でした。今後もイレネー記念馬の名に恥じないレースぶりが期待できそうです。

2着のハクタイホウは、いうまでもなく惜しい競馬でした。ただ、デビューから【10・6・4・1】で5着以下がない成績からも、タイトル奪取のチャンスはすぐにも巡ってくるでしょう。先々も目が離せない存在です。

牝馬キサラキクは黒ユリ賞に続く2つめのタイトルが、スルリと抜け落ちていってしまいました。そうは言っても、牡馬相手に互角以上の立ち回りを見せたのは収穫のはず。来年度の三冠戦線も盛り上げてくれそうです。

◆ 第35回ポプラ賞（4歳・5歳オープン）

単勝5番人気のオレノココロが優勝。昨年のばんえいダービーに続く、重賞2勝目を挙げました。

馬場水分は2.1%とやや力の要る状態。オレノココロ、テンカムソウあたりが馬群をリードしますが、各馬ゆったりと相手の出方をうかがいながら、横並びの状態第2障害を迎えました。

真っ先に仕掛けたのはコウシュハクィーンで、それを見てテンカムソウも登坂を開始。各馬も徐々に仕掛けますが、乾いた馬場が影響しているのか、障害に苦戦。その間にテンカムソウが先頭でクリアし、逃げ込みを図ります。やや遅れて突破したのは、ヒザ折りから立て直したオレノココロ。じっくりためていたクインフェスタもこれに続き、以下ソウケンボーイ、アサヒリュウセイが並んで追撃態勢に入りました。

先頭を行くテンカムソウの脚いろは鈍く、徐々に後続が迫る苦しい展開。ただ、追撃勢も脚どりは重く、残り10メートル付近でテンカムソウ、オレノココロ、クインフェスタが横一線で我慢比べを演じます。そして残り5メートルでテンカムソウがわずかに遅れ、2頭がゴールにほぼ同時にゴール線を通りぬく。軍配はわずか0秒6差でオレノココロに上がりました。クインフェスタが2着で、3着にはテンカムソウが入線しました。

オレノココロは5歳馬と同じ750キロを課せられ、しかも障害でヒザを折りながら、最後に抜群の勝負根性を示しました。2着のクインフェスタが710キロだったことも考え合わせると、さすがダービー馬と思わせるような、着差以上の強さといえます。この厳しい条件を勝ち切っただけに地力の高さは相当で、今後の世代限定重賞でも中心的存在となるでしょう。さらなる活躍を期待したいと思います。

◆ 第46回ばんえい記念（4歳以上オープン）

単勝6番人気のインフィニティーが優勝。4分以上に渡って繰り広げられた究極のパワー勝負を制し、ばんえい界の頂点に君臨しました。

馬場水分は2.7%と多少力の要る馬場でスタート。好ダッシュを決めたのは1番人気のキタノタイショウで、ニュータカラコマもこれに続き、人気2頭が先行態勢。シベチャタイガーを最後に、全馬順調に第1障害を突破。その後は、例によって脚を止めな

がら、じっくりと進んで行きます。中間点もほぼ横一線。各馬互いに相手の出方をうかがいながら進んで行きました。それでも、終始ペースを握ったのはキタノタイショウ。正攻法で進み、第2障害を先頭で迎えました。

静寂の時間が続いたのち、シャンシャンという音とともに動いたのはホリセンショウ。インフィニティーもそれを追いかける形で仕掛けます。他馬はそれでもためていましたが、ここで満を持してニュータカラコマとキタノタイショウが動きます。ホッカイヒカルも上々の登坂を見せ、各馬も徐々に仕掛け始めました。

しかし、ここからの攻防が長いのがばんえい記念。キタノタイショウ、ホリセンショウがヒザを折り、立て直しては腰を入れ、を繰り返して懸命に荷物を曳き上げます。そうして、ようやく天板に脚をかけたのはホリセンショウとインフィニティー。そしてこの2頭が馬体を併せたまま登り切り、並んで障害を下りていきました。やや遅れてフクドリも突破。キタノタイショウも争覇圏内でクリアしました。

障害を下りて先頭に立ったのはインフィニティーですが、その脚どりは重く、3番手クリアのフクドリが先頭へ。しかし、そのフクドリも脚を止め、今度はインフィニティーが前へ。西謙一騎手と浅田達矢騎手、ともにデビューから10年に満たない2人による、懸命な扶助が続きます。3番手のホリセンショウ、そしてキタノタイショウも食い下がろうと歩を進めますが、差はいつこうに詰まりません。

そして残り20メートルを切ったあたりから、なにかきっかけをつかんだようにインフィニティーがリズムよく歩きはじめ、フクドリを突き放します。しかし、フクドリもあきらめません。インフィニティーに食らいつくように、再度半馬身差まで差を詰めます。そして残り10メートルを切ったところからは総力戦。3歩進んでは止まり、また歩き出してはすぐ止まり…。しかし、残り5メートル付近。浅田騎手が全身使って繰り出す渾身の手綱にこたえ、またインフィニティーがリズムをつかみます。そして、最後は確かな脚どりでゴール板を通過し、4分超の死闘にピリオドを打ちました。フクドリはすばらしい追撃を見せたものの、7秒6差及ばず2着。ホリセンショウも酷量に苦しみながら最後まで粘りを見せ、3着入線を果たしました。2番人気のニュータカラコマは障害での遅れが響いた格好で4着、1番人気のキタノタイショウもしまいの伸びを欠き5着と、ともに精彩を欠きました。

勝ったインフィニティーは昨年の北斗賞に続く重賞2勝目。浅田騎手とともに、これがばんえい記念初出走、初制覇となりました。多少力の要る馬場だけに早めの競馬をしながら粘り切った内容は高く評価でき、この馬の能力の高さを示したといえるでしょう。人馬ともにニューヒーローの誕生。今後もこのコンビの活躍から目が離せそうにありません。

2着のフクドリは昨年のこのレースで7着でしたが、飛躍的なジャンプアップを見せました。500キロ台のスピードレースも、1トンのパワー勝負もこなせる究極のオールラウンダー。来季もさまざまな舞台上、アツと言わせてくれるに違いありません。

ホリセンショウが3着で、帯広記念制覇に次ぐ好走を見せました。当時は9番人気での勝利でしたが、今回の結果から見ても底力はばんえいトップクラス。ジワジワ歩き続けた内容も良く、今後も消耗戦では台頭してきそうです。

※ レース情報の内容につきましては、ばんえい競馬情報局より抜粋しています。